

ヤシャビシヤク *Ribes ambiguum* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 14。自然度の高い森林に依存する植物で、著しい園芸目的の採取圧がある。

【形態】

落葉性の小低木。根は他の樹木の幹上をはう。幹はよく分枝し、高さ 30～50cm、枝は長枝と短枝がある。葉は互生し、長さ 1.5～3cm の柄があり、葉身は腎円形または丸みを帯びた五角形、直径 3～5cm、掌状に 3～5 浅裂し、先端は円形、基部は心形、辺縁には浅い欠刻状の鈍鋸歯があり、両面に短毛がある。花期は 4～5 月、花は各短枝の先端の葉間に 1～2 個ずつつき、がくは 5 裂、がく片は淡緑白色で花弁より大きく、長さ 5～8mm である。果実は秋に熟し、球形で熟しても緑色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46896, 1993-8-22)、2 豊根 (小林 42359, 1993-5-4)、3 東栄 (小林 56442, 1995-4-29)、6 設楽西部 (芹沢 85938, 2010-7-3)、8 鳳来北東部 (芹沢 85159, 2009-10-10)、9 鳳来南部 (小林 62667, 1997-10-18)。西：5 稲武 (芹沢 74880, 1998-8-23)。20 足助 (葛沢, 川合 s.n., 1931-8-15) で採集された標本もある。

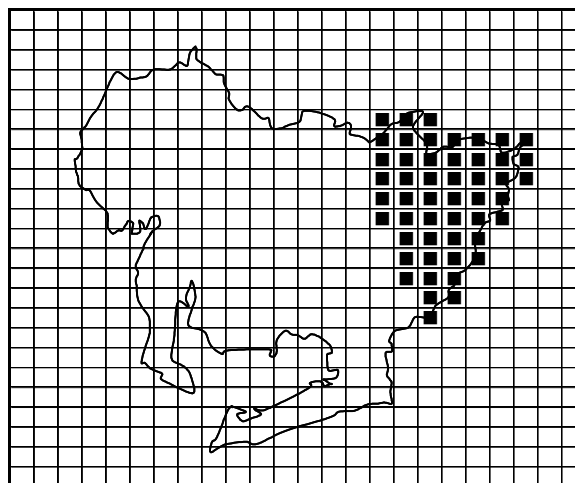
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸西部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹の樹幹に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地も個体数も少ない。どういうわけか盆栽の対象として珍重され、手の届くような所のはほぼ採り尽くされている。自然林が広範囲に伐採された時代にはそれにより激減したと思われるが、現在は園芸目的の採取が減少の主要因である。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県ではわずかに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の形によると言われている。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.103, 平木本Ⅰ p.160, 平新版Ⅱ p.193, SOS 旧版 p.57.